

Mの意味は「マネジメント」

「実は、ここに来て初めてCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）という言葉を聞いた」と、九州地方整備局企画部技術管理課の阿部成二課長補佐は明かす。「わたしも同じ。3次元設計に取り組む事例は知っていたが、国土交通省全体で

CIMの道筋

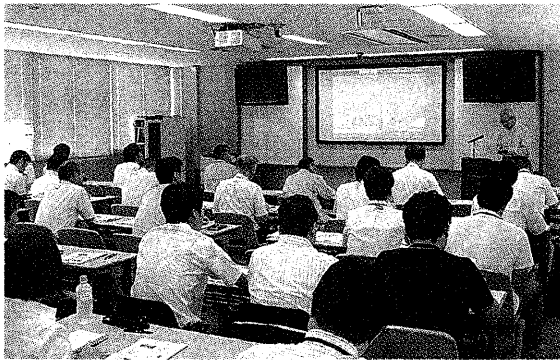
変わる発注者意識 10

九州地方整備局

試行に乗り出していることは知らなかった」と、栗原正純工事品質調整官も赴任当初を思い出す。ともに熊本河川国道事務所から現在のポジションに異動して、まもなく1年が経過する。大きく変わったのはCIMへの理解度であった。事務所時代は現場の最前線で設計者や施工者と向き合ってきた。栗原氏は「3次元モデルを次の工程に受け渡すスキームが確立できれば、発注者の大幅な業務改善につながる糸口を見いだせる」とし、阿部氏も「不具合が出た時、すぐに属性情報に戻れることが今後の維持管理のあり方を大きく変える」と、CIM導入の効果について自分なりのイメージを持てるようになった。

局内に九州地方CIM導入検討会（委員長・小林一郎熊本大学教授）を充足したのは2013年7月。出先事務所を巻き込む形で、整備局としてCIMの推進に舵（かじ）を切った。同年9月から12月にかけて全7地区で実施した説明会にもなく1年が経過する。大きく変わったのはCIMへの理解度であった。事務所時代は現場の最前線で設計者や施工者と向き合ってきた。栗原氏は「3次元モデルを次の工程に受け渡すスキームが確立できれば、発注者の大幅な業務改善につながる糸口を見いだせる」とし、阿部氏も「不具合が出た時、すぐに属性情報に戻れることが今後の維持管理のあり方を大きく変える」と、CIM導入の効果について自分なりのイメージを持てるようになった。

局内に九州地方CIM導入検討会（委員長・小林一郎熊本大学教授）を充足したのは2013年7月。出先事務所を巻き込む形で、整備局としてCIMの推進に舵（かじ）を切った。同年9月から12月にかけて全7地区で実施した説明会にもなく1年が経過する。大きく変わったのはCIMへの理解度であった。事務所時代は現場の最前線で設計者や施工者と向き合ってきた。栗原氏は「3次元モデルを次の工程に受け渡すスキームが確立できれば、発注者の大幅な業務改善につながる糸口を見いだせる」とし、阿部氏も「不具合が出た時、すぐに属性情報に戻れることが今後の維持管理のあり方を大きく変える」と、CIM導入の効果について自分なりのイメージを持てるようになった。



7地区で開いた説明会には出先事務所から延べ250人が出席した

7地区で開いた説明会には出先事務所から延べ250人が出席した

「すべてを3次元化するのではなく、部分的に取り入れ、最大限の効果を得ることが大切。それには、しっかりと目的を持つことが求められる」と考えている。

13年度は設計段階で3件、施工段階で3件を試行対象に選定した。他の整備局に比べ、バランスよく試行案件が抽出できたのも検討会による課題整理が下支えしている。出先事務所には維持管理にまで3次元モデルデータを有効活用することを前提に、導入目的を探るよう促している。局を挙げて、CIMに対する認識を変えようとしているのだ。

「14年度以降、7地区それぞれから試行の取り組みが自発的に出てくれば」と期待をのぞかせる阿部氏。描いているのは、最も上流の調査段階から順を追って維持管理段階まで引き継がれていくCIMの姿だ。それはモデリングではなく、まさにマネジメントのCIMである。（おわり・西原一仁）

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬ 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |

平成26年3月6日(朝)・夕) P1